



病院長
新家 眞

夏のご挨拶



梅雨曇りと梅雨晴れが交互に来る季節となりました。本日(6月16日)は、「和菓子の日」だそうです。任明天皇(平安時代初期の余り目立たない?天皇)が疫病を鎮める祈願のために、16個の菓子を神に供したという故事にちなんで昭和54年に制定されたそうですが、恐らく和菓子屋さん以外誰も知らない日ではないでしょうか?しかし、疫病を鎮めたい、即ち病気をコントロールしたいというのは、万古千秋、人間の共通の願いで、現在の(お菓子や神様ではなくて)医学に携わる者全ての願いである事は論を待ちません。

現在、すさまじい勢いで人口の高齢化が進んでおり、国もその対策に躍起になっています。団塊の世代(昭和22年~25年の第一次ベビーブームで生まれた人々)が全て75歳以上の後期高齢者となる2025年に向けて、国は病院だけで医療介護を行うのではなく、地域が一体となり患者さんに向き合う、所謂地域完結型の医療・介護システムの確立を推し進めています。すなわち「必要な時(時々)入院、ほぼ在宅」医療システムです。そのためには①いかに健康寿命を延ばすか(予防医学)、②いかに地域の人を、円滑かつ速やかに必要に応じて入院させられるか(地域医療支援)が重要で、この2点にいかに貢献できるかで、地域医療支援病院としての関東中央病院の存在価値が問われる事になります。

①の点に関しては、本院には、もともと公立学校の先生のための健康管理科(人間ドック)が、他の一般診療科とは独立した組織として備わっていたという利点があります。平成29年度よりそこを「健康管理センター」として、事務に専任の課長を配置し、地域住民の方々の生活習慣病、がん等の早期発見、健康管理をさらに発展させることにしました。いくつかの専門ドック(消化管、肺、女性、眼など)を新設し、ご来院をお待ちしています。特に緑内障、白内障発見のための眼のドック、認知症の早期発見につながる物忘れドックは既に大変ご好評を頂いております。

②の点に関しては平成29年5月より、地域包括ケア病棟(37床)を新たに開設しました。これは一般病棟で急性期の症状が安定した後に、すぐに在宅が困難と考えられる場合(在宅での生活・療養に不安がある。もう少しの入院で社会復帰できる等)に、在宅復帰の準備と支援をする、即ち「時々入院、ほぼ在宅」の橋渡しをする役目を持つ病棟です。

本院は世田谷区唯一の地域医療支援病院として世田谷区民の皆様を中心に、高度かつ安全な医療を提供をするという自負があります。これからも世田谷区の地域完結型の医療・介護システムの中核として、「何かあった時は関東中央病院」と真っ先に思っただけのよう、努力していきたいと思っておりますので、宜しくお願いいたします。